

2008/04/10

トヨタ自動車株式会社  
 ダイハツ工業株式会社  
 富士重工業株式会社

## トヨタ・ダイハツ・富士重、開発・生産における新たな協力関係に合意

トヨタ自動車(以下トヨタ)、ダイハツ工業(以下ダイハツ)、富士重工業(以下富士重)は、開発・生産における協力関係を発展させ、各社の持つ技術力を活用して、新たな商品ラインアップ、開発体制を構築していくことで合意した。

トヨタと富士重は、2005年10月に業務提携して以来、トヨタからスバル オブ インディアナ オートモーティブ インクへの生産委託など、お互いのブランドや経営の独自性を尊重しながら、開発や生産の分野において相互の経営資源の活用を行ってきた。また、ダイハツと富士重は、ダイハツから富士重への欧州市場向け小型車のOEM供給など提携関係を築いてきた。

今回の合意は、トヨタ・ダイハツ・富士重3社が、相互にシナジー効果を発揮し、競争力をさらに強化することを狙いとしたものであり、具体的には以下の3点である。

- (1)小型FRスポーツ車をトヨタと富士重が共同開発し、両社で市場展開
- (2)トヨタから富士重へ小型車をOEM供給
- (3)ダイハツから富士重へ、軽自動車と小型車「クー」をOEM供給

トヨタと富士重が共同開発する小型FRスポーツ車は、富士重のコア技術である水平対向エンジンを搭載した新しいプラットフォームをベースに、運転の楽しさを新たに提案するクルマを目指し開発を進め、2011年末の市場導入を目標としている。生産は、富士重が群馬製作所に新設する完成車組立工場で行い、トヨタは富士重へ生産を委託する。

トヨタから富士重への小型車OEM供給については、富士重が商品ラインアップを充実するために実施するもので、2010年末をめどに実施する。

ダイハツから富士重への軽自動車の国内OEM供給については、富士重が、開発・生産における経営資源を主力商品分野に集中することを目的として実施するもので、2009年後半以降、順次充足し、ダイハツの生産台数増加等のシナジー効果を目指す。

また、富士重が商品ラインアップを充実するため、本年10月から、富士重の国内市場向けとして、ダイハツが本社(池田)工場生産している小型車「クー」を、富士重に年間約6千台の規模でOEM供給する。

なお、富士重のブランド・経営の独自性を尊重しながらも、トヨタと富士重は、協業を円滑に推進するために、富士重が保有する自己株式61百万株をトヨタに譲渡することで基本合意した。今後、公正取引委員会への対応完了後、株式譲渡等を実行する予定で、譲渡後、トヨタは富士重の発行済株式総数の16.5%を保有することとなる。

トヨタ・ダイハツ・富士重の3社は、今後も、長期的な互いの競争力強化と、グローバルな発展に向けた包括的な協力を目指して、これからも広範囲に協議を進めていく方針である。

### <富士重からトヨタへの株式譲渡について>

譲渡時期	公正取引委員会への対応完了後に譲渡予定
譲渡方法	第三者割当てによる富士重の自己株式処分
譲渡総数	61百万株
譲渡総額	311億1千万円
譲渡価格	1株につき510円
譲渡価格の算出方法	2007年12月11日から2008年3月10日までの東京証券取引所における富士重株式の終値平均価格に対し、110%レベル(1円単位切り上げ)

以上

 閉じる